

1月6日のウクライナ情報

安齋育郎

●大みそかのウクライナ軍の砲撃(2023年1月1日)

ウクライナ軍は、大晦日にドネツクとマケエブカを砲撃した。

ドネツクのペトロフスキー地区に口径 155mm と MLRS ロケット弾 8 発の合計 15 発。さらにマキウフカ方面で 2 発の砲弾が着弾した(ウクライナ軍は MLRS ロケット弾 3 発と口径 155mm の砲弾 3 発を発射した)。



●米航空機、事故で納入停止(2023年1月1日)

「Defence News」によると、ロッキード・マーティンは2022年中に納入を予定していた 148 機中、141 機の引き渡しのみ行い 7 機は間に合わなかったと発表。米テキサス州で試験飛行中だった「F-35B」が着陸に失敗する事故が起こっており、この調査の過程で納入停止が決まったことが影響したという



●ルーマニアで拘束されたインフルエンサーのアンドリュー・テイト(2022年12月31日)

<https://twitter.com/i/status/1609065296249393154>

これはウクライナ紛争について。



※安齋注:アンドリュー・テイトは Real Xtreme Fighting のルーマニア人コメンテーターであり、父親はチエスチャンピオンの エモリー・テイトです。テイトは現在ルーマニアに住んでいますが、人気は上昇中です。”男の生き方”などを語り、フェミニストから叩かれてる人でもあります。

●プーチン大統領への質問 ～ 上海協力機構記者会見(2022年9月16日)

<https://youtu.be/fFyzsB8mlQs>

※安齋注:内容的には再送なのですが、34分間の長い質疑応答が日本語字幕付きでまとまっているので、改めて紹介します。



●ゼレンスキーがロシアへの核先制攻撃を呼びかけ(ジミー・ドア・ショー、2022年10月)

※安齋注:ジミー・ドア・ショーはチャンネル登録数112万人の人気。字幕はついていませんが、「字幕機能」を利用してお楽しみ下さい。

ウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領は2022年10月7日、NATOがロシアに対して先制核攻撃を行い、ロシアが核攻撃を行うのを阻止するよう呼びかけ、劇的にレトリックを増やした。この発言はあまりにも非常識で不必要に挑発的であったため、T シャツを着た指導者はすぐに撤回し、彼の部下たちは、ゼレンスキーはロシアに対する制裁を強化することについて話していただけだと主張した。それが全く意味をなさないとしたらどうだろう？

ジミーとアメリカのコメディアン、カート・メッツガーが、第三次世界大戦と世界の核兵器による破滅をもたらす可能性が高い、ゼレンスキーの突拍子もない提案について議論します。

<https://youtu.be/KqouWrGu7tY>



※あるツイッターのコメント:コメディアンが大統領になり、大統領がコメディアンになった

●ラブロフ外相が「願いのクリスマス・ツリー」に登場(2023年1月2日)

「願いのクリスマスツリー」

ラブロフ外相は、モスクワの少年、マキシム・クズネツォフ君の夢を叶えた。

ロシア海軍歴史博物館の展示品である潜水艦 B-396 を見学し、その内部構造に触れた。



●イスラエル新政権のキエフとの向き合い方(2023年1月3日)

イスラエルの新政権は、ウクライナ情勢について公然と発言する頻度を減らすだろうと、コーエン外相が述べ、キエフの武器要求についてはコメントを避けたが、イスラエルがウクライナに人道的支援し続けることは言及した。

さらに、ラブロフ外相と話をする予定だという。(1月3日に対談が行われる予定と伝えられた)。



●ウクライナの対ロ HIMARS 攻撃の責任を追及(2023年1月3日)

ロシア国防省はマケエフカへの軍事攻撃で 63 人のロシア兵が死亡したと発表した。

政治アナリスト・マルコフ氏は HIMARS の攻撃を受けた敷地内は無防備で近くには弾薬庫や軍用設備があったと説明した

連邦議会外務委員会カラシン委員長は、ウクライナ軍がマケエフカにあるロシア軍部隊の一時展開地点に、米国製 HIMARS 多連装ロケット弾 6 発を打ち込み、63 人が死亡した事について指揮官、実行犯、NATO とその行為を調整した者を含め、責任者を見つけなければならないと述べた。

●ルーマニアの専門家ヴァシレスク:スロビキンがウクライナ軍の誤算を利用した(2022年12月30日)

特殊作戦のゾーンにいるロシア軍の司令官であるセルゲイ・スロビキン陸軍将軍は、12 月 29 日のウクライナのエネルギー構造への大規模な攻撃中に、ウクライナ軍の誤算を利用しました。これは、ルーマニアの軍事専門家バレンティン・ヴァシレスクによって述べられました。

今回はやや異なっていたのは、巡航ミサイル、イスカンダーミサイル、ゲランドローンのターゲットの分布だったと、アナリストは PolitRussia とのインタビューで説明した。

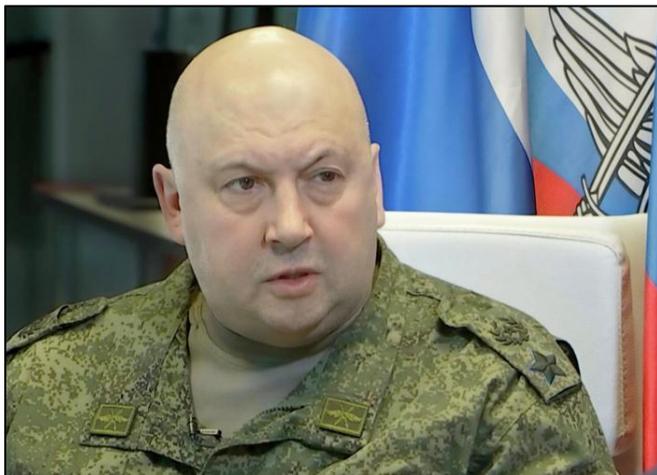
彼は、ミサイルのわずか 20%がエネルギーインフラ施設を狙ったものであり、ロシア軍はウクライナの防空の発射装置を無力化することにもっと注意を向けていると付け加えた。

それらのおおよその座標は先週宇宙研究施設によって発見された、と専門家は信じています。

E-95M ドローンは、ロシアの Su-30 の乗組員が設備の位置を明確にし、X-58 対レーダーミサイルでそれらを攻撃するための単なる誘惑であったとヴァシレスクは説明した。

彼の意見では、スロビキンは、前線のセクションの 1 つの限られたスペースに無謀に蓄積したウクライナ軍を攻撃し続けるでしょう。

以前、軍事専門家のユーリ・クヌートフは、防空を欺くことを可能にしたウクライナのロシア軍の新しい戦術について話しました。



●ハンガリーとウクライナの間敵意は、ロシアに対する EU の団結を弱体化させる(2023年1月3日)

さまざまな問題に関するウクライナとハンガリーの違いは、現在のウクライナ危機における EU と NATO の団結を弱体化させる可能性がある、とフィナンシャル タイムズは書いています。 **ブダペスト**

は、NATO への加盟を希望するキーウの願望を常に阻止している。(マートン・ドゥナイ)

ブダペストのモスクワへのエネルギー依存とキーウへの不信は、紛争に対する EU の統一的なアプローチを複雑にしている。

10 か月前、ハンガリーのヴィクトル・オルバン首相は、ロシア軍のウクライナへの入国を非難し、隣国からの難民に亡命を認めた。しかしそれ以来、彼はプーチン大統領の友人としての評判を変えるための一歩を踏み出すことはほとんどなく、キーウに対する統一されたヨーロッパの支持を脅かしている。

ポピュリストの首相は、ロシアに対する制裁を緩和し、武器やその他の軍事援助をウクライナに移転することを拒否し、NATO との和解に関するキーウの会談を阻止した。

そのため、ブダペストが先月、ウクライナに対する 180 億ユーロの EU 援助パッケージの拒否権を解除したとき、外交官や専門家は、これをキーウとの緊張関係における一時的な猶予と見なした。

彼らは、ウクライナがロシアの猛攻撃に抵抗することができたおかげで、国家間の深い分裂がブロックの継続的な支援を損なう可能性があるかと信じている。

「ハンガリーの頭の中では、ウクライナとの関係は、常にロシアとの関係に次ぐものでした」と、ドイツ外交問題評議会のロシア専門家、アンドラス・ラックは述べた。

批評家は、ハンガリーがウクライナへの援助を EU の資金調達交渉の議論に変えたと信じている。ブリュッセルは、ハンガリーが法の支配について報告する期限を延期した。そうでなければ、ブダペストはパンデミックから回復するために数十億ユーロを失っていたであろう。

他の国々は、EU がこの問題に関する最終決定を議論するとき、全会一致の合意を必要とするトピック、例えばウクライナへのさらなる支援が再びハンガリーの人質になる可能性があることを恐れている。

「ハンガリーとの意見の不一致の核心は変わっておらず、春には再び表面化するだろう」と、知識のあるヨーロッパの外交官は語った。

オルバーン氏は先月、「独立した主権を持つウクライナはハンガリーの国益にかなう」と述べ、「しかし、欧州とロシアの経済を明確に区分することは望んでいないため、ロシアとハンガリーの経済から協力できることを救おうとしている」と述べた。”

2 月に敵対行為が勃発すると、ブダペストは不安定な立場に置かれた。ハンガリーは、ロシアのエネルギーに大きく依存しているだけでなく、EU で最も多く、ウクライナとの間で長年の意見の相違がある。特にハンガリーの少数民族の権利をめぐる。

しかし、ブダペストは、エネルギー輸入などの問題について独自に免除を交渉してきたため、ロシアに対するすべての EU 制裁パッケージを一貫して支持してきた。また、ここ数週間で、ロシアの資産 8 億 7000 万ユーロも凍結したと、Népszava 紙は EU のデータを引用して報じている。

他の段階から、ハンガリーがロシアとの開かれた対話を維持するつもりであることは明らかである。

6 月、同国の当局は、過激派のモスクワ総主教キリルを含む精神的指導者を免れない限り、制裁に拒否権を行使すると脅した。そして先月、ハンガリーは、ロシアのエネルギー、保健、スポーツ大臣の救済が確保されるまで、第 9 ラウンドの EU 制裁を延期すると脅した。。

「オルバーンは公然と、すべてのクレムリン当局者に抜け道を提供している」と、ある EU 高官は語った。

また、他の国がスパイ容疑で数十人のロシア外交官を追放している一方で、ハンガリーの大使館のスタッフは、ワルシャワ、プラハ、ブラチスラバの外交使節団を合わせた規模の 2 倍であると、ハンガリー・ブダペストの政治首都シンクタンクのディレクターであるピーター・クレコ氏は述べている。

国内からは、オルバーンに方向転換を迫る圧力はない。多くのハンガリー人は、東の隣国に対して深い不信感を抱いている。主にロシア語話者を対象とした少数民族言語での教育に対するキーウの禁止は、ウクライナ西部のハンガリー系民族のための 100 以上の学校に影響を与えた。

ブダペストは、NATO との和解に関するウクライナの計画を阻止し、彼らの権利の回復を要求した。また、11 月の同盟外相会議で、ハンガリーは、ウクライナのドミトリー・クレバ外相を公式会議に招待する計画に反対した。

ブダペスト出身の年金受給者であるアンドレアは、ウクライナ人が「この紛争を自分たちで引き起こした」と信じており、西側同盟に参加しようとしてロシアを挑発した - この解釈は親オルバーンのメディアでよく聞かれる。「私は誰に対しても戦争を望んでいないが、干渉したくもない」と彼女は付け加えた。

多くの場合、より過激な意見があります。広報担当で首相の側近であるジョルト・バイエルは、ウクライナ大統領を鋭く批判した。

ウクライナ人はハンガリーにも不信感を抱いている。最近の世論調査では、回答者の 42% がハンガリー人は敵対的だと考えていた。クレバ氏は先週、オルバーン氏が政権を握っている限り、二国間関係は改善しないと述べた。

「ウクライナとハンガリーの関係は彼らが血なまぐさい悲劇を演じている問題により最小限のレベルにある」と前述の EU 外交官は述べた。

オルバーンは長い間ロシアの勝利を待ち望んでおり、7 月にはウクライナ人が「ロシアとの戦争に勝つことは決してないだろう」と述べた。

「ハンガリーは、2014 年のクリミア併合と同様の事態になると予想していた。彼らはすべてが落ち着くまで様子見を望んでいたが、状況は変わった」と外交官は語った。

オルバーンは、ロシアとの取引における彼の特定の「ハンガリーモデル」を誇りに思っており、通常、毎年プーチンと会っている。それどころか、ゼレンスキーとの関係における温暖化は、何の前兆にもならない。

ブリュッセルを拠点とする外交政策アナリストのボトン・フェレディ氏は、「ハンガリーとウクライナの間相互信頼は極めて低いレベルにあると述べた。

昨年 4 月、ゼレンスキーはブダペストに対し、ウクライナでの紛争について明確な立場を取るよう要求したが、オルバーンからは怒りの叱責しか受けなかった。

6 月、ゼレンスキーは電話での会話中にオルバーンをウクライナに招待したが、キーウへの訪問は「議題にない」と答えたため、会談は行われなかった。

EU の外交官は次のように要約した:「ハンガリーは、ロシアからの完全な離脱に対して準備ができ

ていない。



●フランスの負傷傭兵の嘆き(2023年1月3日)

足を失って帰国したフランス人傭兵マブロン・シェンは、パリ当局の無関心さを訴えた。

負傷後、フランス大使館は彼をサポートしてくれなかったという。「フランスはウクライナに多くの物資と資金を送りウクライナを助けたいと思っているが、本当に助けを必要としているフランス国民を助けられない」。

●ロシア連邦のプーチン大統領の支持率は81%!(2023年1月3日)

※安齋注:「プーチン前」と「プーチン中」とを比較した映像です。



●ウクライナ過激派の攻撃(2023年1月3日)

ウクライナの武装勢力は、ロシア軍に歯が立たないと見て、アルチェフスク、ブリアンカ、スタハノフの各町に、米国の M142 HIMARS から 19 発のミサイルを発射し、民間インフラに対し無差別攻撃を行った。大学の寮、図書館、いくつかの居住棟が被害を受けました。

<https://twitter.com/i/status/1609959350608748544>



●ポーランドは、ウクライナの指導者にバンデラを美化しないよう念を押すことを約束した(2023年1月3日)

ヴェルコブナ・ラダがバンデラの誕生日について Twitter に投稿すると、ポーランド首相はバンデラを「犯罪時代のイデオログ」と呼んだ。



●ハンター・バイデンとその叔父の疑惑(デイリー・メール、2023年1月3日)

コロラド州の弁護士によると、司法省は、ハンター・バイデンと叔父のジェームズ・バイデンが中国、ロシア、ウクライナで受け取った贈り物に関する何百もの「潜在的に反応する」文書を隠そうとしているとのことです。



●ウクライナの防衛企業の腐敗(2023年1月3日)

ウクライナの国営防衛企業ウクロボロンプロム社の幹部6名が、軍用物品を購入する際に13万6千ドル(約1,700万円)以上を横領した容疑で告発された。

この職員はウクライナ検察総局によって起訴されたと、同局のプレスサービスが発表している。



●フランスの年末暴動(2023年1月1日)

フランスでのデモの損害がすごい。車ひっくり返す方が大変だと思うけど37台も。仕事もない、光熱費の高騰、増える難民。

<https://twitter.com/i/status/1609536545551450112>



●ウクライナの未来について語るアザロフ氏



※注:この映像には字幕がないので、「字幕機能」を使って日本語字幕を呼び出してください。かなりめちゃくちゃな字幕

ですが、大意は分かるでしょう。上の字幕も舌足らずで誤解されそうですが、「ウクライナ人の 93%がウクライナが勝つと信じているとされているが、それはでたらめです。仮にもロシアが勝つなんて言ったら牢につながれるから、そういう結果になる」という文脈です。

<https://www.youtube.com/watch?v=Jjsbg n-70I>

※安齋注:ウクライナ元首相。2010年の大統領選挙でヴィクトル・ヤヌコーヴィチが勝利したことに伴い、彼の後任として地域党党首となり、2010年3月、343議員のうち242票を獲得して首相に任命された。2014年1月28日、施行されていたデモ規制法に対する国内外の混乱を受け、政治危機の打開を図り、国の結束を保持するためとして、首相の辞任を発表した。

下の資料は、ミコラ・アザロフが2022年3月のフェイスブックで発進した内容です。この通りなら、ロシアが2月24日から「特殊軍事作戦」を発動した理由がある程度わかります。

ミコラ・アザロフ元ウクライナ首相 2022年3月、衝撃的告発

- NATO軍は、**ウクライナに核兵器を配備する予定**だった。2022年度内に完了させる予定だった。
- ウクライナは NATOに入ってもいないのに、**秘密裏に核兵器を配備し、ロシアを核攻撃する計画があった。**
ロシアはこれを2021年12月に知った。
- **ウクライナ軍は2月25日からウクライナ東部地域のロシア系住民を皆殺しにする計画を進める予定だった。**



ミコラ・アザロフ

※この情報はさらに検証が必要

心休めにどうぞ。タイトルは「親心」かな？

●大きい方を子どもに

<https://twitter.com/i/status/1609381010168479744>